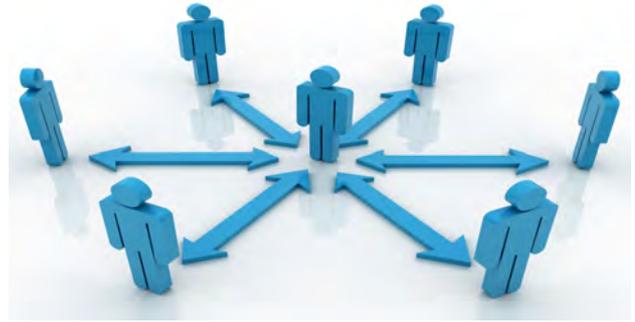


「技術・供給プッシュ」から「社会・市場プル」へ

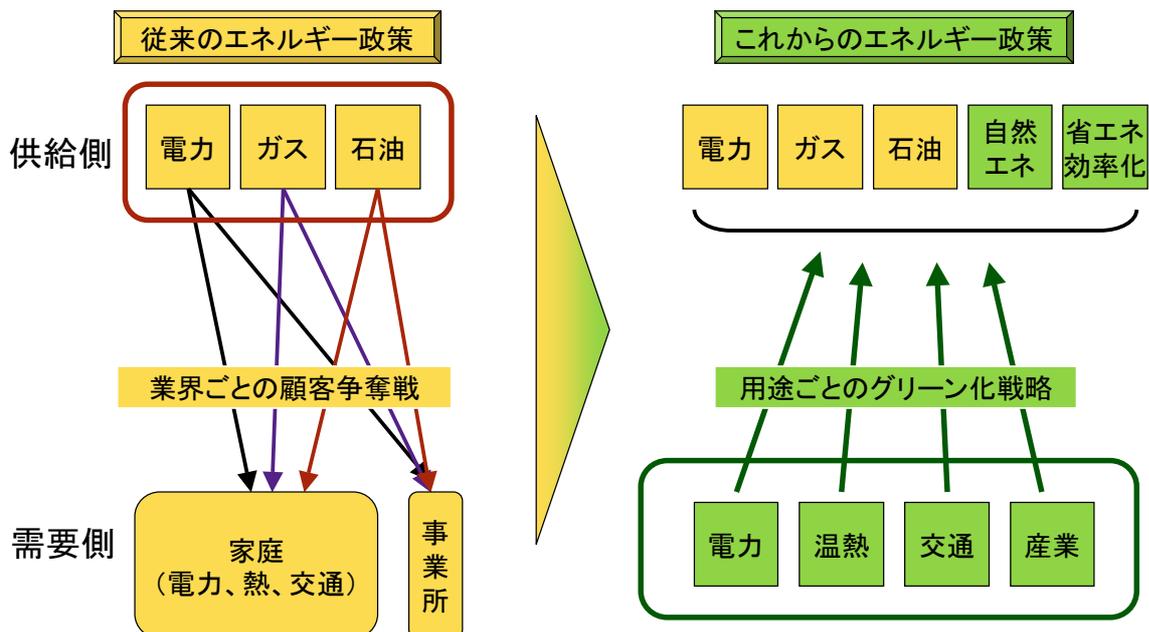


- ・供給側
- ・技術志向
- ・産業主義

- ・需要側
- ・市場&地域志向
- ・生活者主義

(出所) Martinot, E., Chaurey, A., Lew, D., Moreira, J.B. & Wamukonya, N. 2002. Renewable Energy Markets in Developing Countries.

「温熱政策」が欠落してきた日本のエネルギー政策



日本の貧しい熱環境と欧州の豊かなエネルギー福祉

種々雑多な暖房器具で溢れる「貧しい暖房環境」



穏やかな輻射暖房と「火を見る豊かさ」



日本初の市民風車の完成(2001年北海道浜頓別)

HGFとISEPの企画と
200名の市民の出資により完成！

<風車の概要>

- 事業主体：(株)北海道市民風力発電
- 自己資金：
 - ①資本金 2千5百万円
 - ②市民出資金：約1億4千万円
- 補助金：なし
- 発電所名：市民風力発電所・浜頓別1号機『はまかぜちゃん』
- 総事業費：約2億円



その後市民風車は全国に: 青森(2003年春竣工)

市民風車は、2号機、3号機と、徐々にビジネスモデルの完成度を高めていった



53

2004年に日本に環境省モデル事業として上陸

環境省が2004(平成16)年度から開始した「平成のまほろば事業」は、欧州の地域環境エネルギー事務所にヒントを得たもので、長野県飯田市の「おひさま進歩エネルギー」は日本版第1号として2004年12月に発足した。



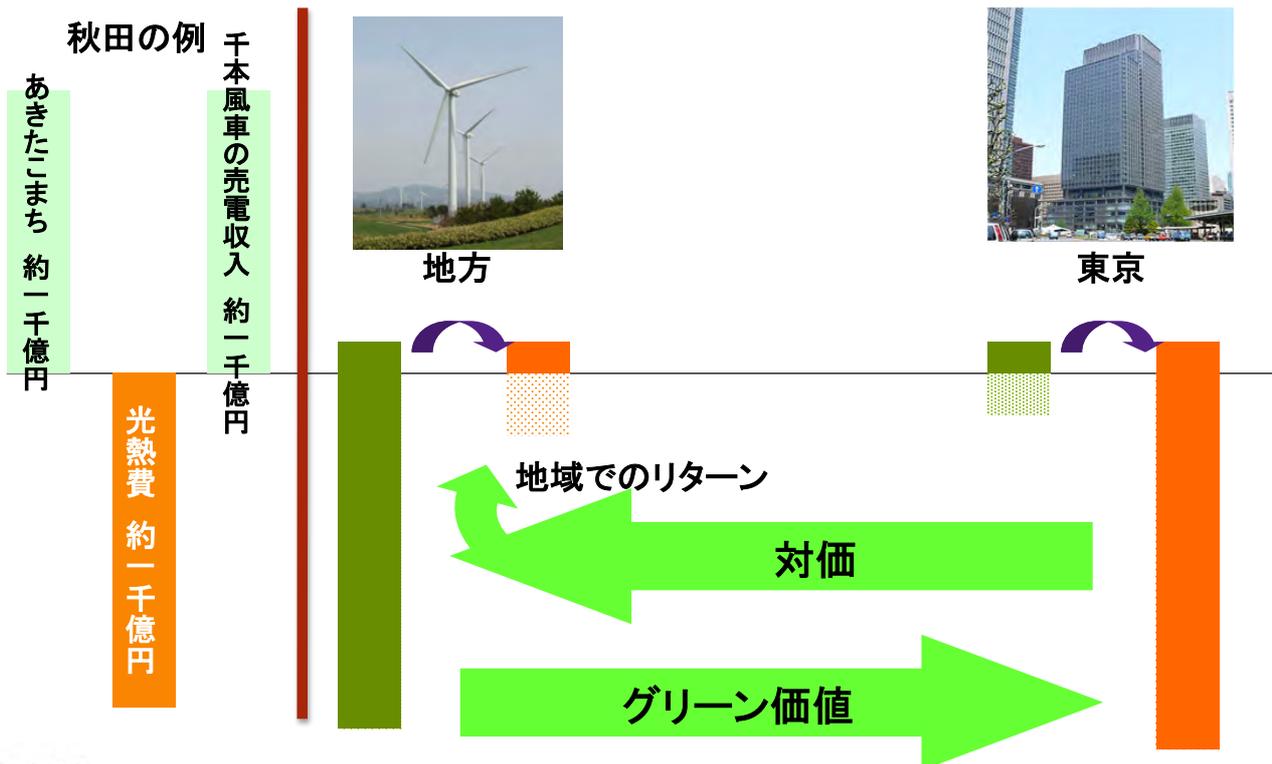
54

国内の市民出資の事業の実績

2007年現在までに延べ4,500名の市民から合計27億円の出資金が寄せられ、11の風力発電、38の太陽光発電所が稼働中。



新しい「エネルギーの地域間連携」



なぜデンマークには風力発電の反対がほとんどないか？

予防的な土地利用計画

地域のオーナーシップ

便益は地域へ還元

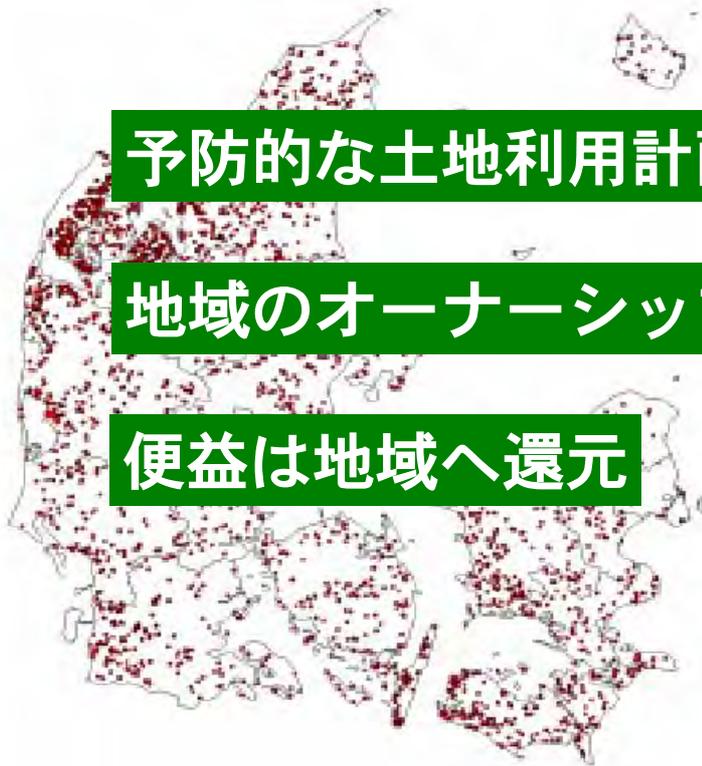


図 7-3 風力発電の土地利用区分図の例



地域からの変革の展開

新しい公共としての核

さらなる発展

身の丈プロジェクト

第2ステージのプロジェクト

なかまづくり

なかまを増やす

地域の「核」

知と経験の蓄積